

令和 3 年度 需給情報連絡協議会の 開催結果について

林野庁 木材産業課 流通班

令和3年度 需給情報連絡協議会の開催

国産材の安定供給体制の構築に向けて、川上から川下まで幅広く様々な関係者が木材等の需給情報の収集・共有を図る事業として、中央及び全国7地区において需給情報連絡協議会（以下「協議会」）を開催。

協議会の構成及び令和3年度の取組

○中央協議会

構成：学識経験者、中央団体、地区別協議会事務局等から構成

議題：木材輸入の状況について

木材需給の動向（全国）について

開催状況（令和3年度）：
臨時会 4月14日
第1回 9月10日
第2回 1月28日

○地区別協議会（全国7地区）

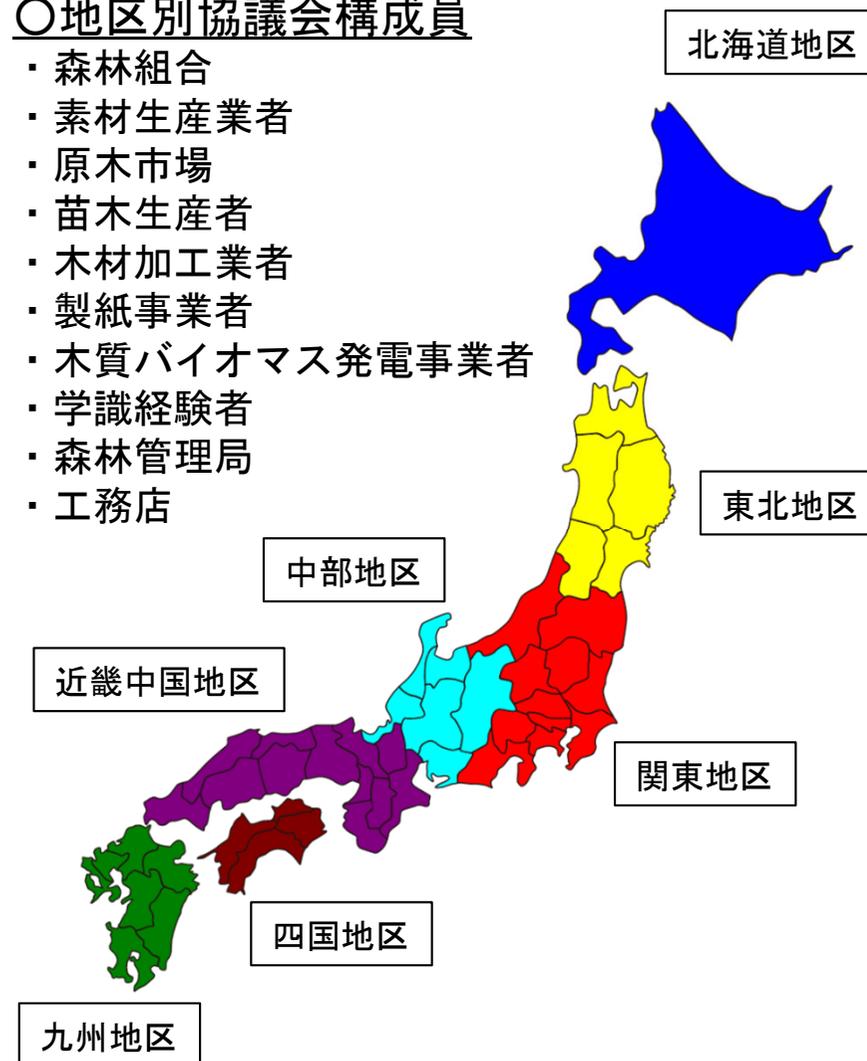
構成：学識経験者、地区における主要な事業者、都道府県等

議題：需給情報（地区）等

開催状況（令和3年度）：
第1回 5月下旬～7月下旬
第2回 9月中旬～10月上旬
第3回 12月中旬～1月下旬

○地区別協議会構成員

- ・ 森林組合
- ・ 素材生産業者
- ・ 原木市場
- ・ 苗木生産者
- ・ 木材加工業者
- ・ 製紙事業者
- ・ 木質バイオマス発電事業者
- ・ 学識経験者
- ・ 森林管理局
- ・ 工務店



令和3年度 需給情報連絡協議会の成果①

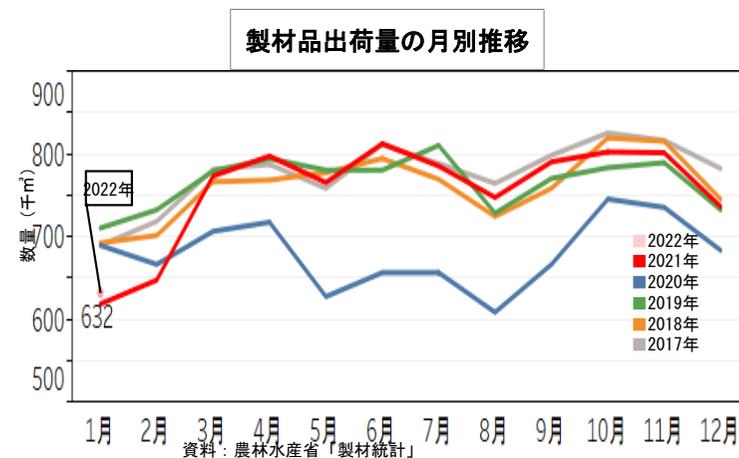
- 林野庁からは、木材の輸入状況や木材加工施設における生産等の動向、加えて、地区別協議会においては、当該地区の国有林における素材生産の早期発注状況等を情報共有した。
- 参加者からは、輸入材製品の価格急騰と供給不足に伴う国産材製品の代替需要の高まりについて、現状と見通しに関する情報が共有された。

【協議会での意見】

- ・ 輸入材は欲しい分だけ入手すればよかったが、国産材は原木一本をどう使い切るかが課題となる。この輸入材と国産材の供給側の違いを川下の需要者に理解して欲しい。
- ・ 今般顕在化した輸入材の供給リスクに鑑み、国産材へのシフトを目指していくのであれば、川上から川下までの関係者が、互いの状況を理解した上で、中長期的な視点から安定需要と安定供給を合わせた形で、業界一体となって体制を整えていく必要がある。

【結果】

緊急・短期的な対応として、川上から川下の木材需給の把握と正確な情報共有を行い、初期の情報混乱への対応ができた。



令和3年度 需給情報連絡協議会の成果②

- 林野庁からは、木材の需給動向等の情報共有と合わせて、補助事業等の支援措置や、加工施設における乾燥機の導入や施主に対して国産材活用を提案した事例等を紹介した。
- 参加者からは、現状と見通しに関する情報の共有に加え、国産材の利用促進等に向けた意見交換を実施。

【協議会での意見】

- ・ 輸入材の管柱など部材によっては、代替としてスギ等国産材の利用が進展。
- ・ SDGs や環境問題への意識の高まりも乗じて、工務店等から国産材を使いたいとの声。
- ・ 今後も国産材利用を促進するためには、加工施設における乾燥施設設備の推進やJAS認証材の一層の普及、また、素材生産の増産に向けたインフラ整備が必要。

このほか、地区別協議会の意見等については、別添資料のとおり。

国産材活用の事例

- ・ 素材生産業者や製材工場等からなる協同組合が、プレカット事業者と国産材安定供給について意思疎通を行った上で、乾燥設備の新規導入を決定。
- ・ プレカット事業者や建設事業者から、施主に対して国産材を活用した設計変更の提案。



木材乾燥機(イメージ)

【結果】

- ・ 戦略的（中期的）対応として、川上から川下の相互理解を深めることで木材製品の需給ギャップ解消に貢献したが、さらなる国産材安定需要の獲得に向けて、国産材製品の供給量増大・競争力強化や原木の供給量増大の必要性を再認識。
- ・ 協議会の結果等を踏まえ、令和3年度補正予算に必要な支援を措置。

第2回 地区別需給情報連絡協議会の開催概要(主な意見)

(別添)

地区別	月日	輸入材・価格の見通し	川下事業者 (住宅供給・プレカット)	川中事業者 (製材・合板製造・市場)	川上 (原木生産)
1 北海道	9月24日	・外材の状況から現在の状況(量・額)のまま推移していくと思われるが、その先(12月以降)は不透明。	・羽柄材・合板等が不足しており、国産材製品に切り替えを実施しているが、供給面に限りがある。 ・木材の価格高騰に引きずられて、ボードや内装材等も品薄状態となり価格の高騰が続いている。建材価格の高騰による住宅価格のコストアップの部分は、客への転嫁よりも事業者自身が負担せざるを得ない状況。	・昨年まで道産トドマツは余り気味だったが、現在では製材用・合板用原木の余りはなく、逆に不足感がある。多少の値上げは受け入れながら仕入れを行っている現状。 ・原木価格は7月までの高騰よりは若干落ち着いてきているが、出材される場所によっては高値が付いており、地域差が出ている状況。	・国有林の素材販売材は高値となっている。例年並みに生産しているが、悪天候とトラック不足が課題。 ・国有林の素材生産及び造林事業の請負事業を実施している事業者が多く、順調に推移しているが、下刈作業が終了しても、素材生産を大幅に拡大できるわけではない。
2 東北	10月5日	・特になし。	・最近合板の量の確保が厳しい。また、羽柄材の入手に時間を要する。 ・プレカットに関しては、材がなく、プレカットができないということは全くない。	・工場はフル稼働しているが、増産量はせいぜい5%程度。 ・供給量を増やすために一番のネックは人手。人手不足を補うために効率の良い機械を入れても、素材が安定的に入ってこないとできない。素材の供給が重要。	・10月以降、素材生産は例年どおり増えていくと思われる。 ・これから冬に向かえば、国有林請負から民間の山の伐採に向かう。川上からはA～D材が出てくる。これから平均的によく売れる状況になってきた。
3 関東	9月30日	・特になし。	・住宅着工は好調だが、木材に加えほかの住宅機器の輸入も滞っており、今後の品薄が懸念。 ・地元製材所と連携しているところはうまくいっているが、外材中心の工務店は価格上昇分を自腹で対応していると聞いている。	・合板のせいで住宅着工が遅れていると言われるが、フル稼働で顧客への供給は続けている。 ・元々、目いっぱい生産しており、ウッドショックだからと言って、増産余力は1割くらい。	・市場の入荷状況が芳しくない。労働力不足に加え、下狩り作業が残っている。 ・市場の入荷は良好だが、市場のキャパがあるため、取扱量は増えない。
4 中部	9月24日	・今回のウッドショックは世界的なインフレ。木材に限らず鉄や半導体の価格も上昇。 ・第3クォーター分も入港が遅れており、量も70%くらいになり、これから資材不足や値上がりになり、来夏3月まで続くことになる。	・企業によってばらつきはあるものの、住宅の契約状況は総じて安定して推移。価格は高止まり。大手は調達の見込みがある程度立つ状況だが、中小は調達難と差が出ている。 ・中部地区はほとんど材料不足は感じられない。	・休日出勤でフル生産。中部圏で丸太が確保できず、茨城、栃木、群馬、山梨まで手を伸ばしているため、運賃がかさんでいる。 ・製品の需要が多いので受注は多いが、原木の調達に苦戦。基本的には域内で調達しているが、間に合わない分は広域で集材。	・価格の上昇と工場が安定的に受け入れているので、出材意欲は高まっているが、労働力の制限もあり10%増程度。 ・山を買ってから伐採するまで半年から一年かかる場合もあり、今の値段が維持されるか不安を抱えている事業者もいる。
5 近畿中国	9月28日	・第4クォーターの輸入材については、量・価格ともに第3クォーター程度。 ・来年の3～4月ころまでは同じ状況ではないか。	・木材価格高騰を施主に転嫁しきれないが、国産材を使ってきた工務店は大きな影響を受けていないとも聞いている。 ・ウッドショックで、梁、柱、間柱など何でも国産材に切り替えてはきているが、以前ほどの必死さはなくなってきた。	・国産材シフトといっても、人もモノも足りない。投資するためには、皆が国産材を買ってくれるという前提が必要。 ・ボトルネックは乾燥と原木調達。	・担い手不足は否めない。主伐後植栽するにも造林班が大きく減少している。 ・間伐から主伐にシフトして生産を増やした。山を伐ればA材からD材まで出る。B材は合板に、C、D材は自社バイオの燃料とすることで、増産できた。A材だけ増産とはならない。
6 四国	9月29日	・レッドウッドはまた価格が上昇しそう。国産材価格が下がりにくい状況は続くのではないか。	・工務店は、半年前、一年前の見積もりを基に建築しているので、木材価格が上がったから追加経費をくださいとはならない。工務店が損をかぶる形。 ・プレカット事業者からは、価格は高いけど材料はあるという声を聞いた。	・原木が必要な時に無く、不足のピークを過ぎてから出てくるという事態を避けるには、年間通じて安定的に原木を出していただき、川中はストックを持ちながら安定的に買う努力を必要。 ・安定供給とは、欲しいときに欲しいだけのものが買えることでは無く、一定量を安定的に出し続けることではないのか。我々は安定供給しており、国産材供給量を減らしているわけではない。	・増産してほしいと言われるが、労働者数の都合もある。 ・素材生産を絞っていたわけではない。これ以上皆伐を増やしたらますます再造林が手薄になる。
7 九州	9月16日	・第3四半期分の輸入材の価格が一番高く、国産材メーカーも10月、11月に最も価格を上げてくるが、これを嫌う客が出始めている。 ・今足りないのは合板、管柱、土台。	・木材だけでなく、鉄や金属の価格も上昇傾向。輸送コストも産業横断的に上昇するなどあらゆる価格上昇局面になっている。	・羽柄材は若干の荷余り感。なんでもくださいという状況は収まってきた。KD柱材、スギの側取の品質のいい羽柄材はずっと注文が埋まっている。 ・国産材集成管柱はフル生産。全国に先駆けて値上げを実施。これまで国産材製品は輸入材と比較され価格が決まっており、販売価格から割り戻して原木価格になっていて、原木価格が非常に安い状態になっていた。製品価格を上げすぎではないかという声があるが、我々が努力しているのは国産材の安定供給。国産材の価値が適正に評価され、山元還元する流れになれば、他地域よりも高い原木価格設定で、原木は安定して確保できている。	・高値で購入した山は、今の相場の中で伐採したいため、秋以降出材が増加していくのではないかと。 ・製材でも原木でも、今後の動向は読みにくいだが、需給マッチングについて関係者が認識していくべき。

第3回 地区別需給情報連絡協議会の開催概要(主な意見)

地区別	月日	輸入材・価格の見通し	川下事業者 (住宅供給・プレカット)	川中事業者 (製材・合板製造・市場)	川上 (原木生産)
1 北海道	1月18日	<ul style="list-style-type: none"> 輸入材は年末年始に最高値となっている。3月から5月に2割程度価格が下がる見通しだが、今後のアメリカ、ヨーロッパの景気回復次第で不安定。 輸入ラミナ価格は頭打ちで今後下がる見込みで、国産と入れ替わりの可能性。 	<ul style="list-style-type: none"> 受注について、春先以降の案件が来ているが、合板の供給が懸念事項となっており、非住宅物件は案件が減っている状態。 工務店から、道産材への転換利用の問い合わせが多いが、羽柄材に一部米松を代替品として使用するなど、現状安定供給が出来ていない。春から夏にかけて、国産材と輸入材の価格が逆転するのではと見込んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 合板工場はフル稼働しているが、集荷が間に合わず増産できていない。在庫も2020年比で4割減。 国産材製材に代替する話は出ているが、出材量が少ないこと、出材後に乾燥・プレーナーをかける流れが出来ていないため、供給が追いついていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 運材費、人手不足、トラック経費等から、原木価格の上昇がそのまま森林所有者に還元されている訳では無く、値上げの実感は強くは沸いていない。 工場からの引き合いもあり、フル稼働しているが人員が限られており、増産には限界がある。素材販売単価が上がっているが、立木単価も上がっているのが経営的にはリスクもある。
2 東北	1月20日	<ul style="list-style-type: none"> 岩手県ではロシアからの単板入荷が悪くなっていることから、カラマツの引き合いが上がり、値上がりが見込んでいる。 過去の国産価格として安過ぎたので、国内での価格は正についてこれを機に考えるべき 	<ul style="list-style-type: none"> 合板価格が以前の倍程度になっており、入荷も難しい状態。工期は1か月伸びており、コロナの関係でイベントできず受注が難しい見込み。 コスト増で受注減。東南アジアからのMDF入荷不足により、工期が伸びている。住宅設備関係の入荷も3、4か月遅れ。 	<ul style="list-style-type: none"> プレカット工場から、合板が足りず工場の回転が悪いので、柱の供給を待つ欲しいとの話もあり。冬季で製材工場の生産量が落ちており、ラミナ原板の不足が見え始めている 合板工場はフル生産で対応しているが、働き方改革などにより、増産まで持っていけない。合板用原木在庫についても全国で0.3か月程度とかなりタイトになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 秋田県は本格的な伐採時期を迎えており、例年通りの生産となる見込みだが、雪が多く例年以上に手間がかかっている。 素材生産はコロナ前並に生産出来ているが、増産は出来ていない。1班増やせば増産可能だが、人を増やして設備を用意すると億単位の設備投資となり、踏み切れないところ。
3 関東	1月19日	<ul style="list-style-type: none"> 北米からのバルク船により、新木場では北米材が7万㎡となるなど通常の倍。これはカナダ水害で陸路が寸断され、航路で日本に一気に来たことが理由。 米松製材の生産量は以前と同水準まで戻ったが、製品単価と原木単価がどんどん上がり、製品単価は一段落。 	<ul style="list-style-type: none"> 東南アジアのロックダウンによる、資材不足や防水設備の不足が建設現場に大きく影響している。 住宅の受注・分譲は順調。プレカットは、想定以上のオーダーがあり、2,3月は空くはずなので先送りした分でフル稼働の予定。ただ、機器調達と合板不足がボトルネック。 	<ul style="list-style-type: none"> 輸入材から国産無垢材への切り替えが進まなかったのは、外材と同等の品質とされるKDのJAS材の供給が十分で無かったため。既設の乾燥施設で、短期間に生産量を増やすことができないし、新規設置の場合の立地(住宅が近接しないなど)は限られているので、簡単に増設できない。 昨年度に比べると、目当てを付けたのか工務店からの県産材の問い合わせが減ってきている。乾燥がボトルネックになっているので、製材業界と意見交換しながら乾燥施設の整備を検討したい 	<ul style="list-style-type: none"> 製材価格は下落してきたが、合板用材の引き合いが強いことから、北関東～東北では合板・製材用材とも、原木価格が高値維持。 素材生産組合をR3.11に設立し、素材生産の基盤を整えている。
4 中部	12月15日	<ul style="list-style-type: none"> フィンランド、スウェーデンから日本に届くまで5、6か月のラグがあるので、今は7月積みの1番高い輸入材が入ってきている。さらに8、9月積みは依頼している60%くらいしか入らない見込み。 4～6月積みは10-11月に日本に集中して入ってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 木材価格は高止まりだが、安定供給されている。給湯器部品や住宅設備が半導体不足の関係で欠品しており、対応に困っている。 集成の梁・柱桁・合板は集められる枚数で対応しており、増産には応じてもらえない状況で、従来使っていないラワン構造材、中国産の針葉樹、OSBでしのいでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 輸入材から国産材への代替において乾燥機不足がネックとなっている。 輸入材が入ってきているが部分的にWWやRWが足りないため、県産ヒノキの下地材や構造材に切り替え補填。 	<ul style="list-style-type: none"> 原木流通はタイトで、合板・バイオマス用材が不足。 人を急に増やそうとしても限界がある。
5 近畿中国	12月13日	<ul style="list-style-type: none"> ホワイトウッド、レッドウッドは不足感が続いており価格は高値で横ばいの見込み。 (その他) SDGsの流れ、脱炭素への動き、環境問題を通じて価値を創出し国産材の良さを理解してもらう必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 工務店からは住宅現場が止まる原因が木材ではなく、住宅設備の不足になってきている。 乾燥材が大量に確保できる外材のメリットと比較し、国産材は乾燥できていない状況でポリウムも無く、外材に頼らざるを得ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 原木不足は解消、ヒノキも値下がりがしている。製材についても4月から7月までは何でも売れる状況だったが、今はA材以外の引き合いは強くない。 国産材をいかに継続して使ってもらえるかが重要であり、川下の事業者に対して、今後も国産材製品を使用するかアンケートを実施し、川下からの継続利用の意向が確認できた製品量について、供給を可能とすることを目的に乾燥機を増設予定。 合板はフル生産だが受注をさばけてない。南洋材から国産材への代替需要が影響していると思料。 	<ul style="list-style-type: none"> 木材価格の高騰を聞いた山林所有者から、山を買ってほしいという話が増えているが、木材の高騰は一時的なものだと説明して多少の色を付けて購入しており、森林所有者へ恩恵は行きわたっていない。 新たに下請けに入ってもらい生産量を増やした。
6 四国	12月21日	<ul style="list-style-type: none"> 長期的には住宅着工戸数が減少するので、輸出も視野に認証材を検討したい。 (その他) 国産材への転換に向けて動機付けが必要であり、その一つにSDGsがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 集成材の梁桁の値段が高すぎるため、米松で代替している。スギヒノキは高値であるが集まっている。 受注はパワービルダーは順調だが、工務店は厳しく代わりにリフォームなどの件数を増やしているところ。 	<ul style="list-style-type: none"> 原木は安定的なので1～3月はフル生産の予定。 素材生産量が増えたのでチップ用の出材が増えると考えたが、C材からA,B材向けに持って行かれ、20%入荷が減っている状況。 	<ul style="list-style-type: none"> 素材生産量は例年程度。 ウッドショックは一時的なものともみているので、機械の導入や新規雇用まではしてない。
7 九州	1月24日	<ul style="list-style-type: none"> 米国着工順調であり、日本向けは入ってこないとの情報。 輸出丸太材の数量は4.5月ピークで価格良好。夏に下落し中国向け数量減したが、オリパラ後は例年通りの見込み。 	<ul style="list-style-type: none"> 住宅受注は順調。合板関係は、昨年末から急に不足。給湯器やトイレ、ドイツ製食洗器も不足し、2～3か月待ちなど。 年末前から建材が値上がりし、施主に見積もりを持っていきにくい。生コン、基礎の値上がりで計400万円の価格増になる。物が入るのが見えるまで建て控えも見られる。 プレカットは、年末に調達が一段落。合板不足は関東が中心で、九州にも問い合わせがくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 集成材は引き合い強く、1割増でフル生産。製材は厳しいが、ラミナ製造は必要。 合板製造において、土曜メンテを生産にして不足解消に向けて努力。 出材好調なので原木集めやすい。本州から買いにくるので、今後価格が上がる可能性。 	<ul style="list-style-type: none"> 伐採量増やすと、造林・下刈作業が増え対応出来ないで増やせない。 ウッドショックにより山の採算はかなり回復したので、この後も同程度で推移するとよい。